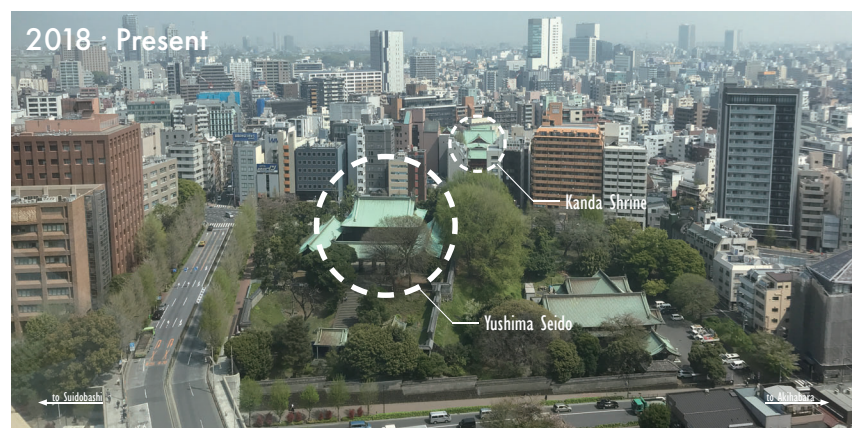
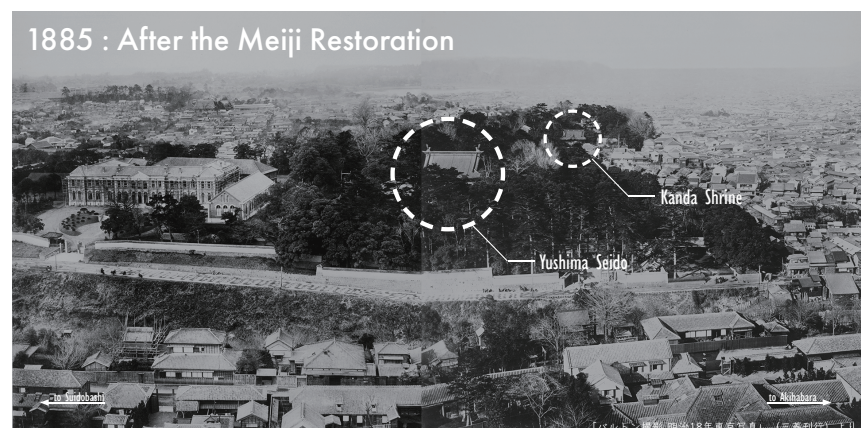
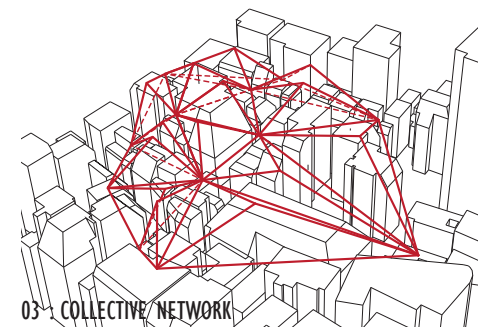
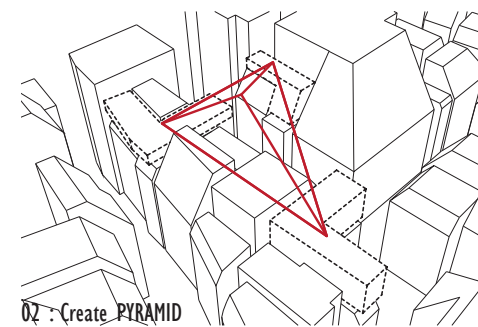
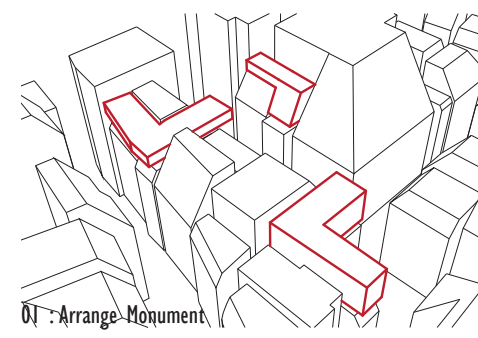
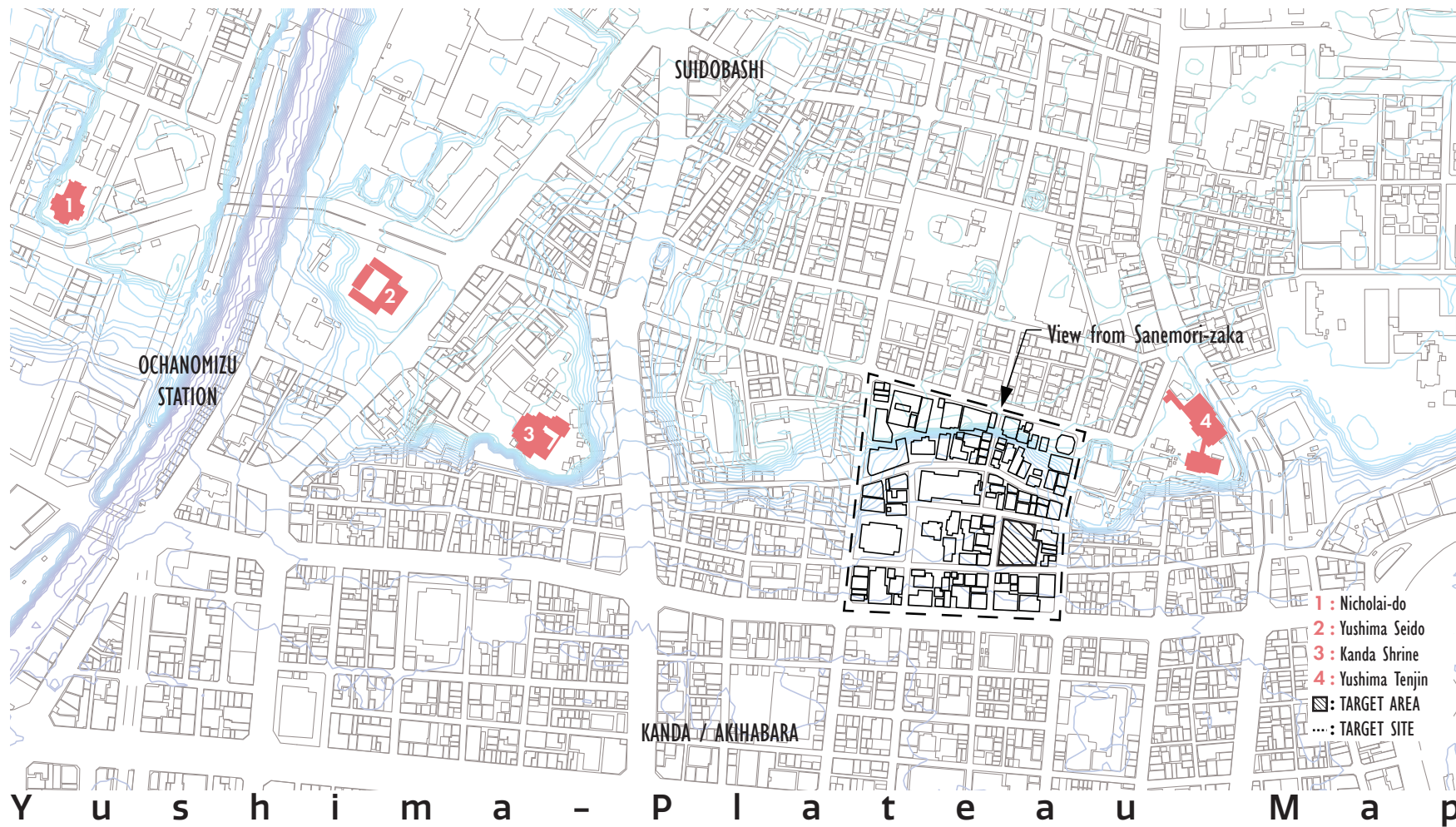


P L A S T I C

C I T Y :

C O L L E C T I V E M O N U M E N T S



View from Nicholai-do: 1885 & 2018

Background

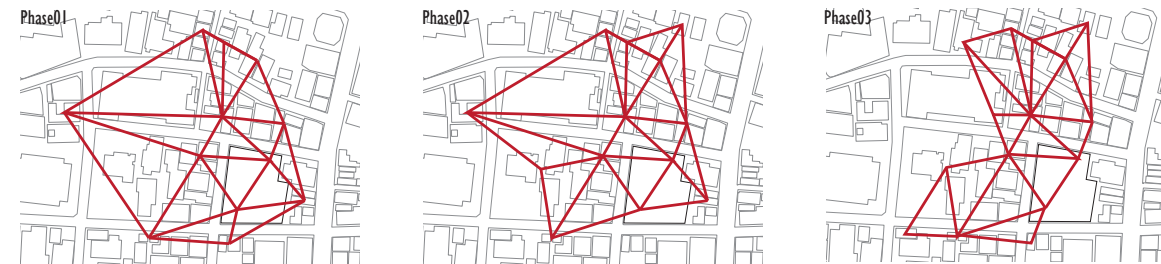
東京都文京区・千代田区に位置する、ニコライ堂、湯島聖堂、神田明神、湯島天神は湯島台の端部に位置する。湯島台の重要な土地を占めるこれらの宗教施設が焦点となり景観が構成され、江戸期以来現代に至るまで東京の近代化における無数の物語を刻みながら周囲の都市環境を制御してきた。

しかしながら、1923年の関東大震災、第二次世界大戦後の高度経済成長期を経て、計画道路の挿入や都市の高層化・高密度化により、宗教施設群は都市の中で孤立的でありもはや周囲の都市環境を制御することは不可能である。

都市の空間的変貌過程を特徴付ける際立った要素は、ニコライ堂・湯島聖堂のような単一の建築ではなく、複数のものが互いに関係を結び、集合体として都市環境を制御するのではないだろうか。アルド・ロッシ著『都市の建築』における「モニュメント」の概念を類型し、集合型モニュメント=COLLECTIVE MONUMENTの概念を導く。

集合体による制御の仕組みを湯島台に適用し、その制御下における建築と都市環境を設計する。

The Phase of COLLECTIVE NETWORK



Concept

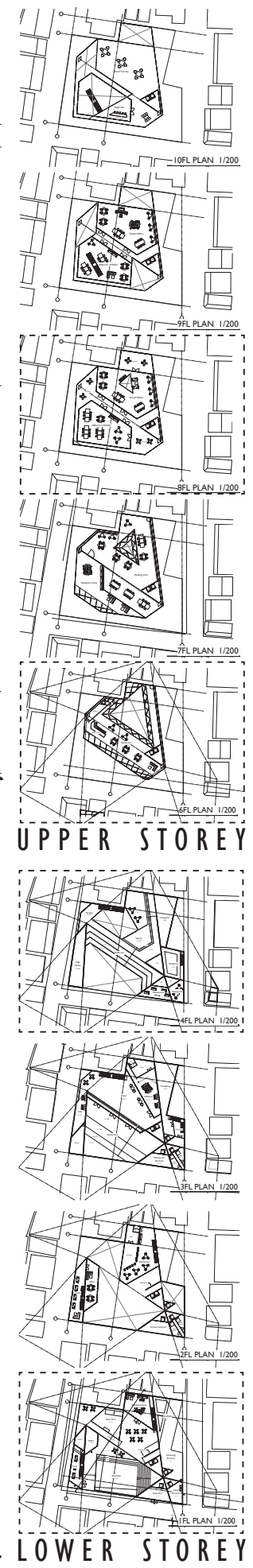
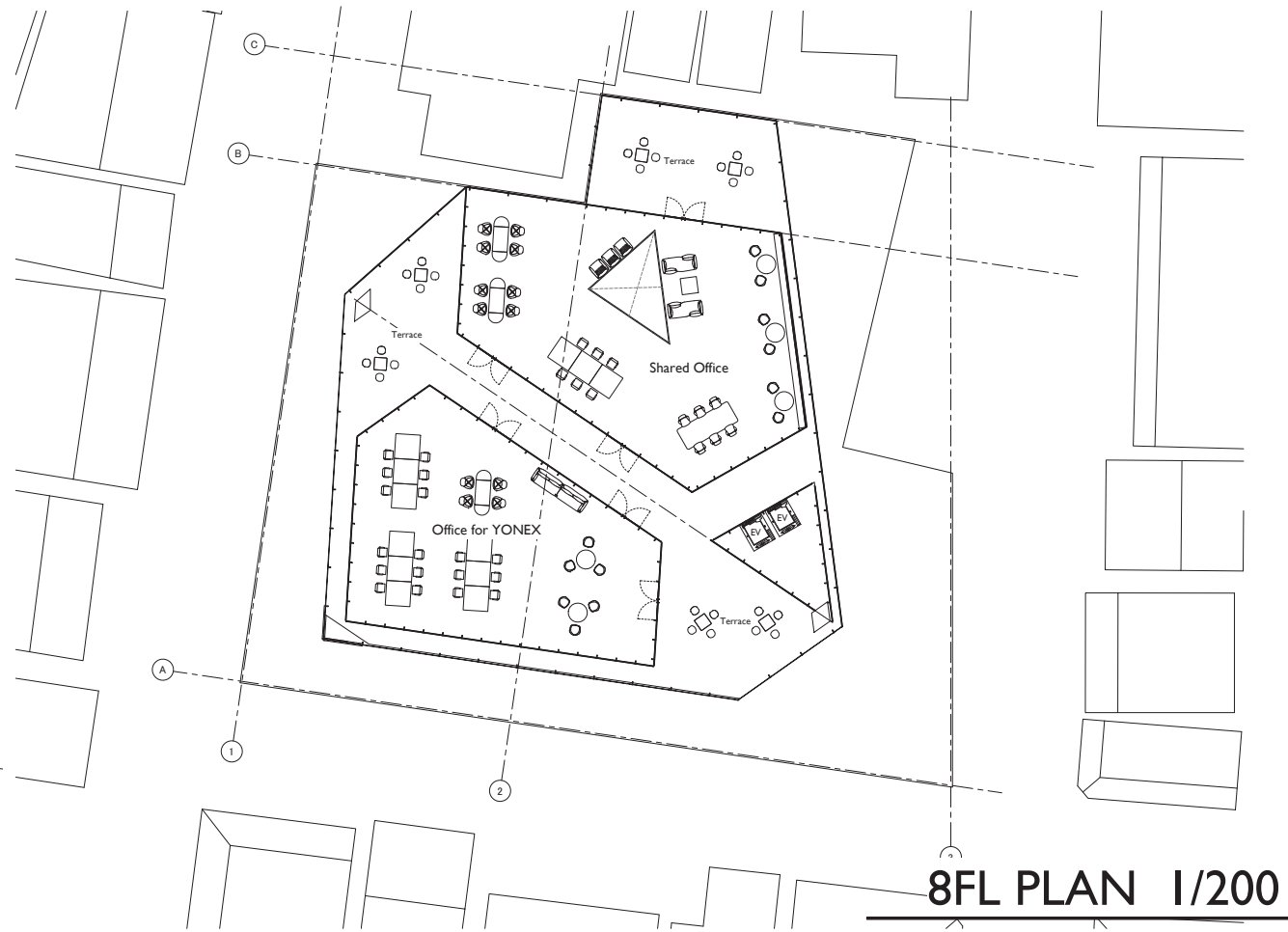
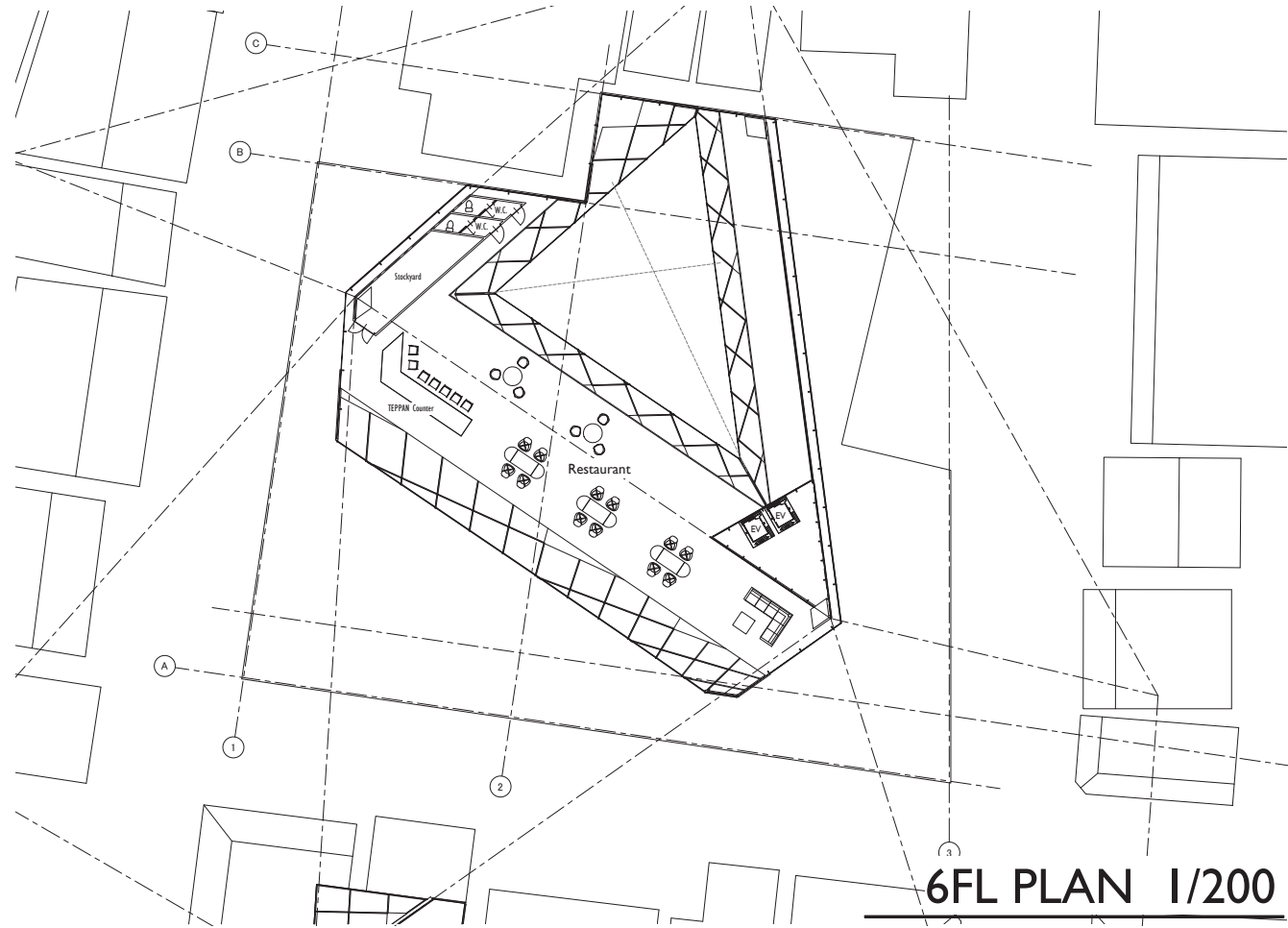
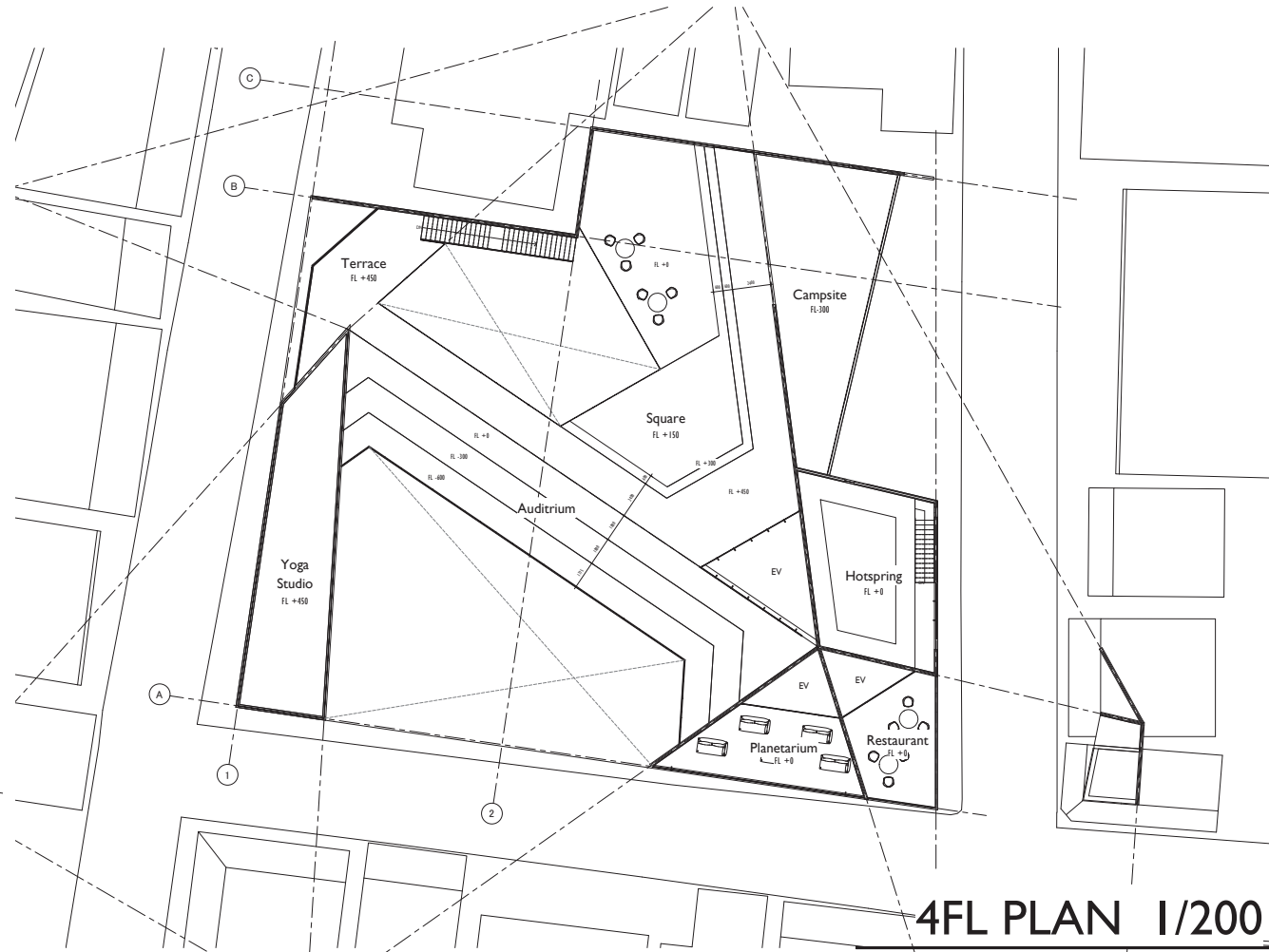
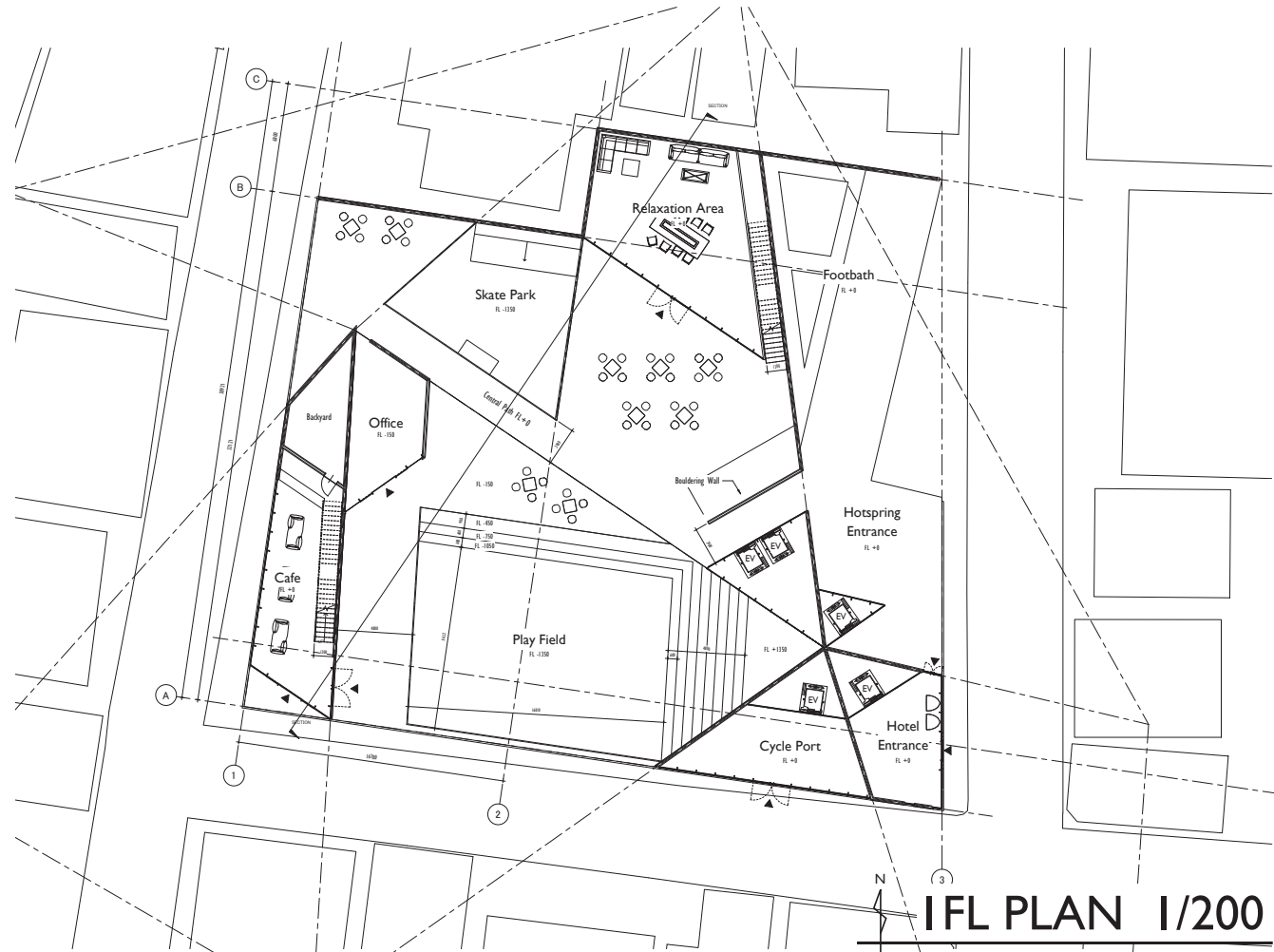
湯島台にユニークなランドスケープを生み出す。高層化・高密度化したビル群の屋上面を新たな地盤面と捉え、地盤上で展開される多様な活動は現代の湯島台独自の景観となる。

設計対象範囲は、宗教施設群の影響が小さく大規模な開発も少ない神田明神と湯島天神に挟まれたエリアを選定した。このエリア内の実盛坂からは、中高層のビル群が生み出す人工的で複雑な幾何学による地盤面が顕著に現れ、集合体による新たな都市環境を構築する上で最適な状況であると考えた。

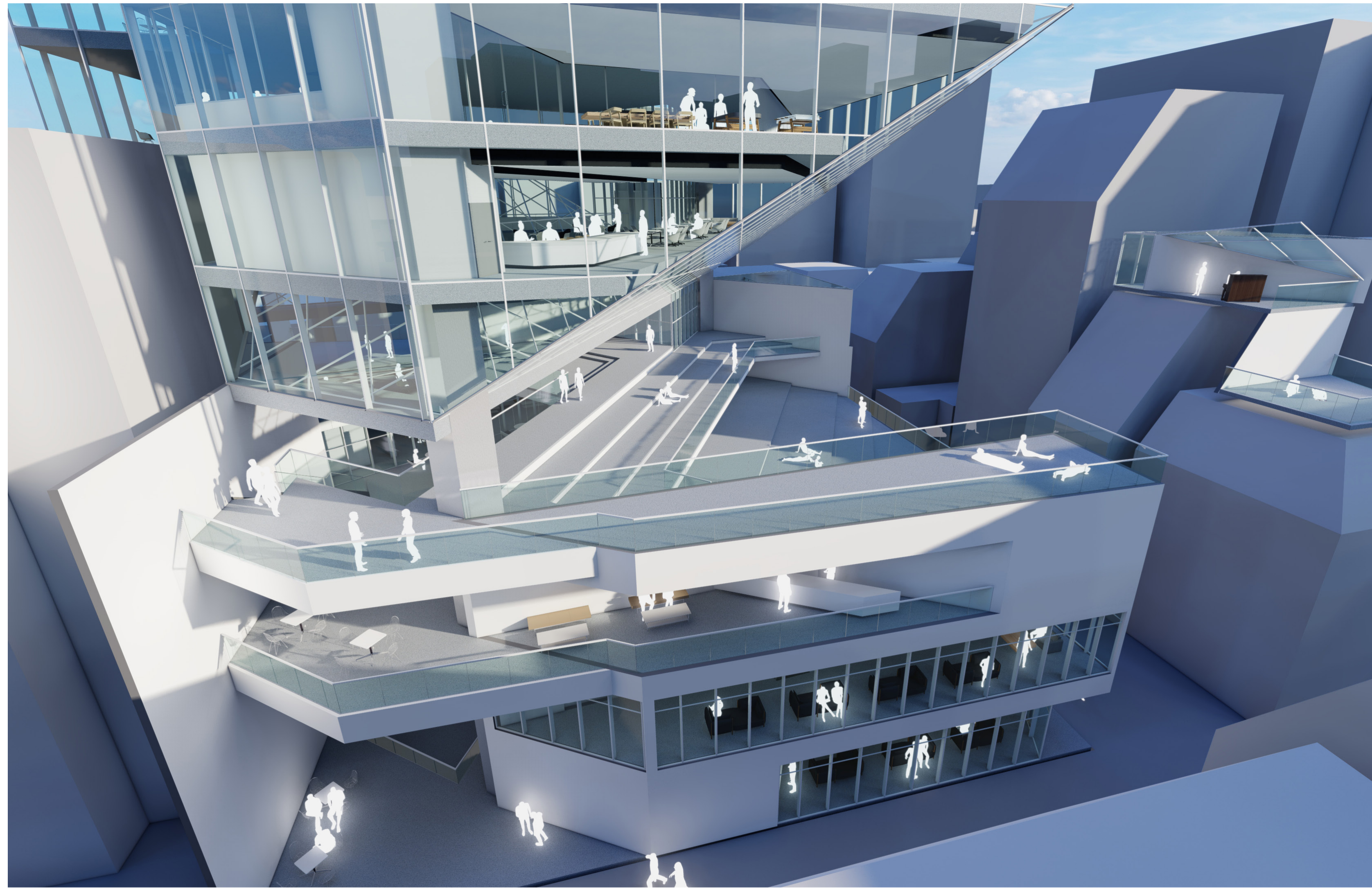
新たな地盤面である屋上面の空隙に集合体の要素を配置する。ある要素と隣接するもので三角錐を形作る。他の要素でも同様の操作を繰り返し、三角錐の集合体によるネットワークとなる。集合体としての形態であるこのネットワークが設計対象範囲における建築の幾何学と活動を規定する。

このネットワーク下において、ヨネックス本社が位置する設計対象敷地に11層の複合商業施設を計画する。施設と周囲の集合体要素とが新たな地盤面における湯島台独自のランドスケープを生み出す。

COLLECTIVE MONUMENTS

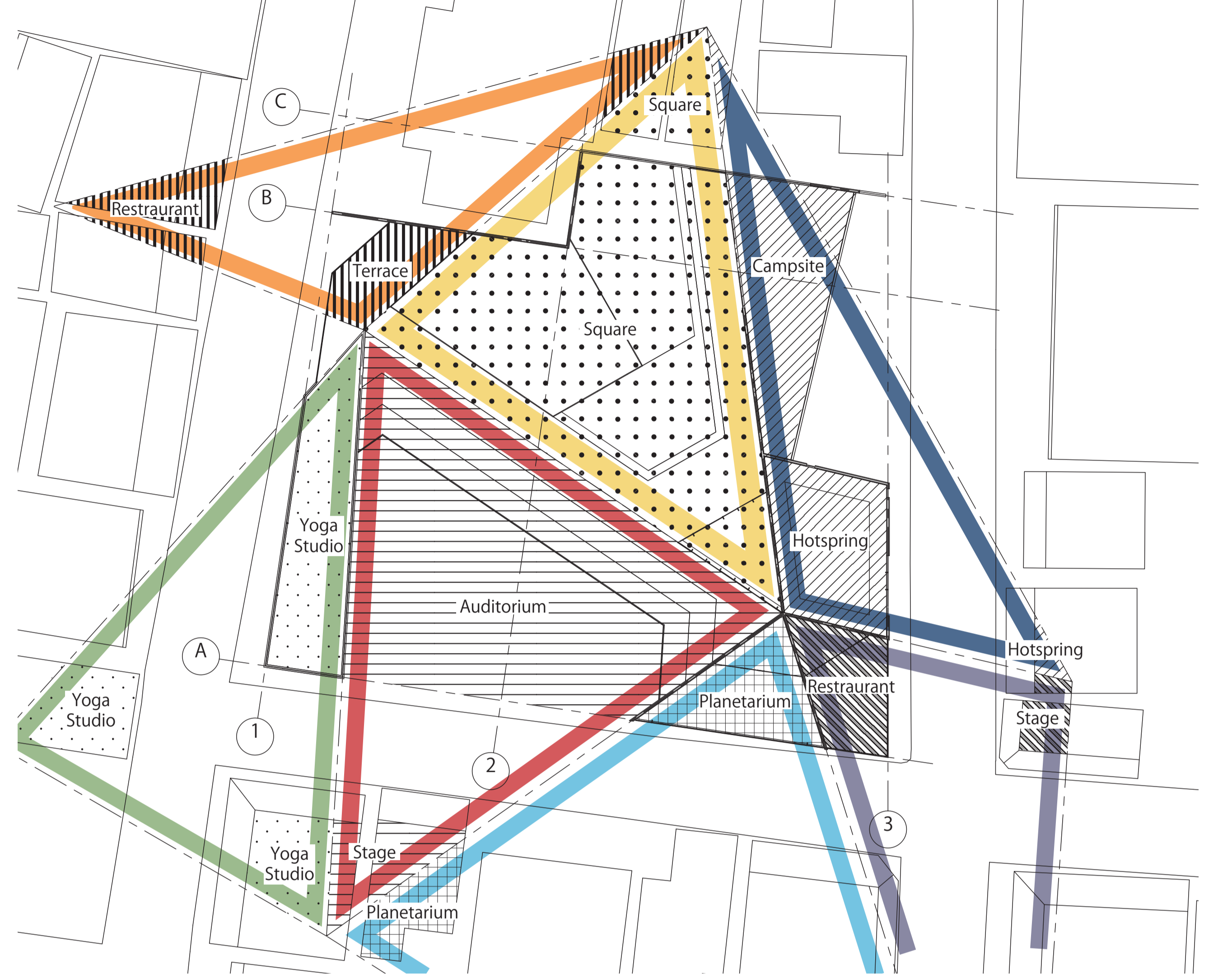


LOWERS TOREY



4 F L : E X T E R I O R V I E W

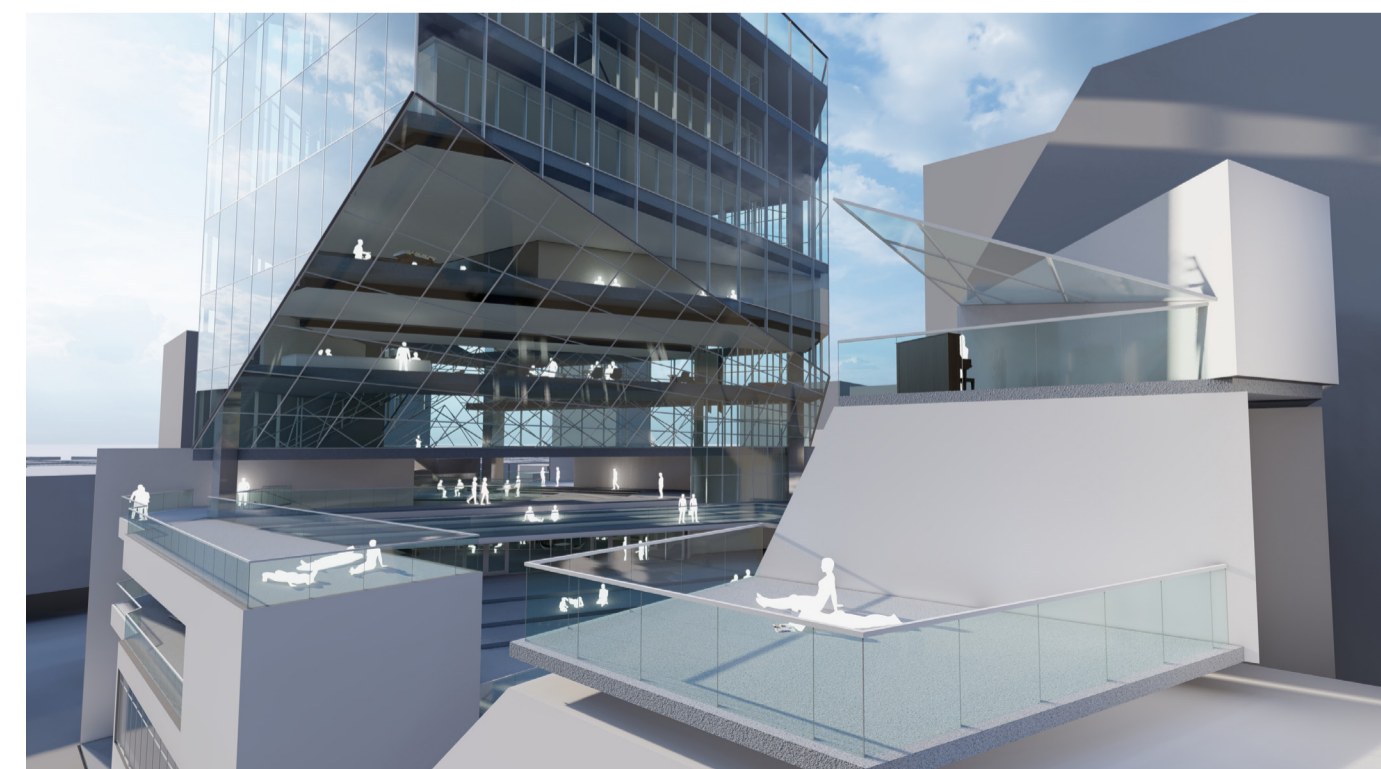
PLAN DIAGRAM : Split by Triangle



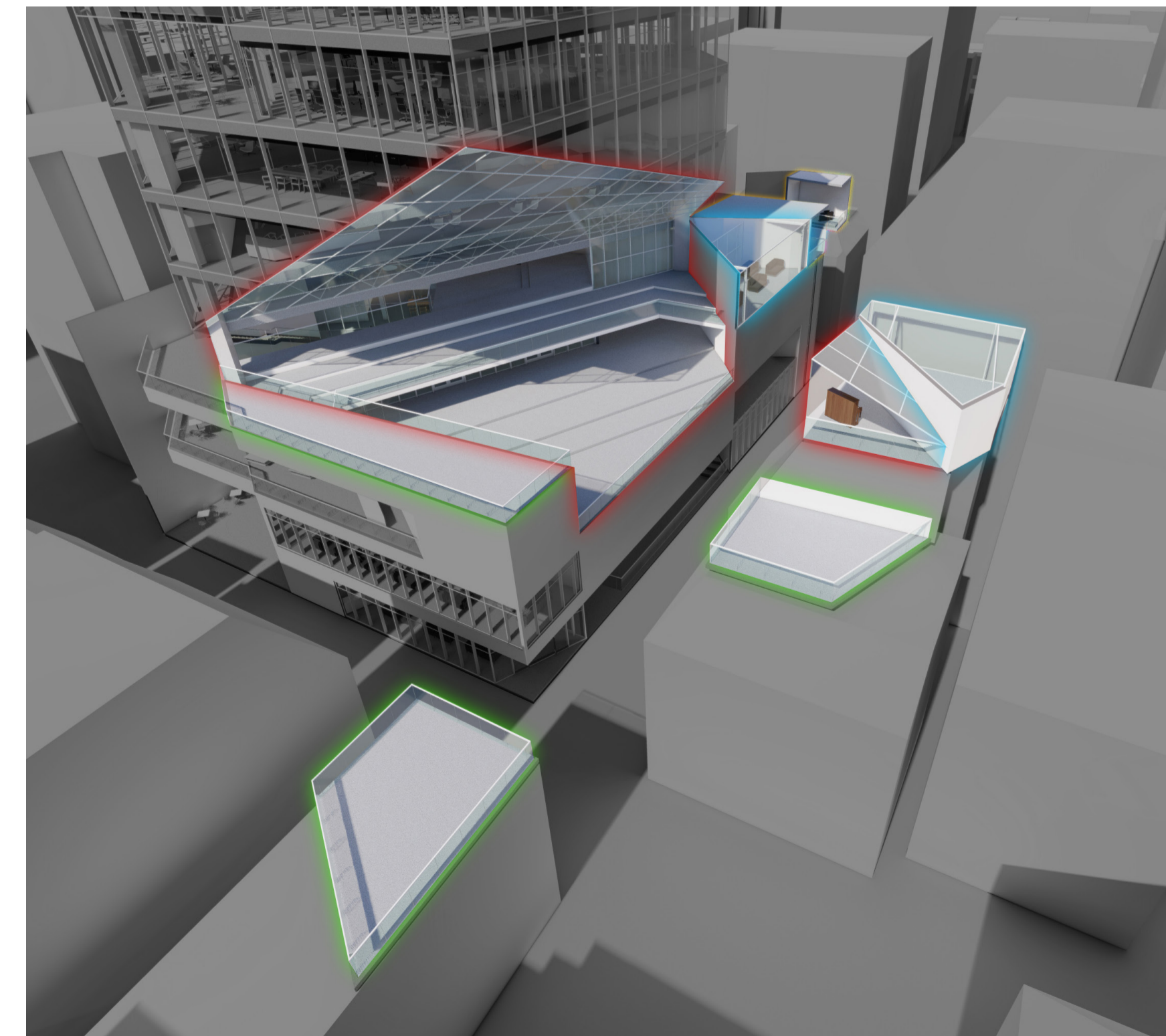
1 F L : E X T E R I O R V I E W



1 F L : I N T E R I O R V I E W



View from MONUMENT



A c r o s s t h e S t r e e t

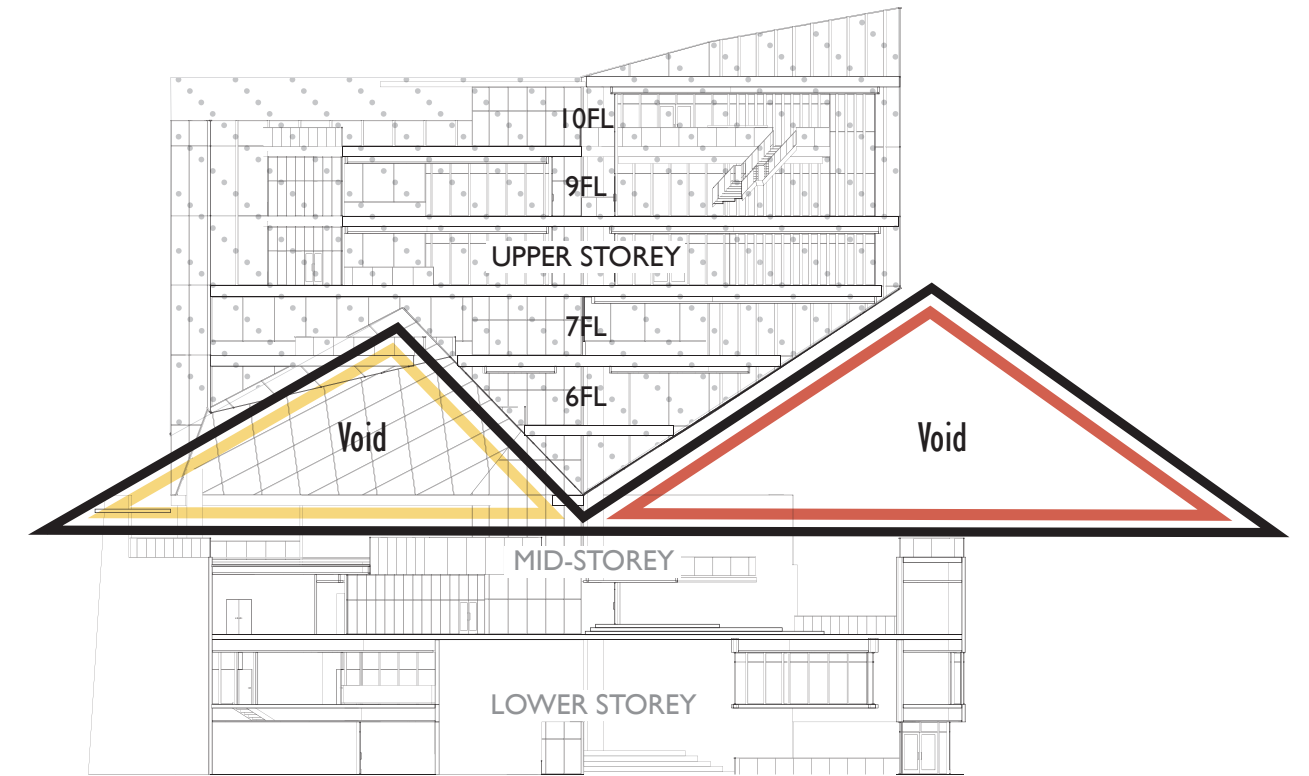
LOWER STOREY :

三角錐の集合体によるネットワークの形態を平面に投影する。投影された三角形の領域ごとに機能が決定され、新たな地盤面に留まらず地上に至るまで集合体により制御を受ける。それぞれの領域に設定された機能が交わったり分離したりしながら、多様で入り組んだ形態を作り出す。

周囲の建物屋上面と同レベルの4FLでは、機能と活動が通りと建物をまたいで共有される。集合体ネットワークにより規定された既存の区割りや建物に囚われない形態とそこでの活動は湯島台に特有なランドスケープを新しい地盤面上に生み出す。

U P P E R S T O R E Y

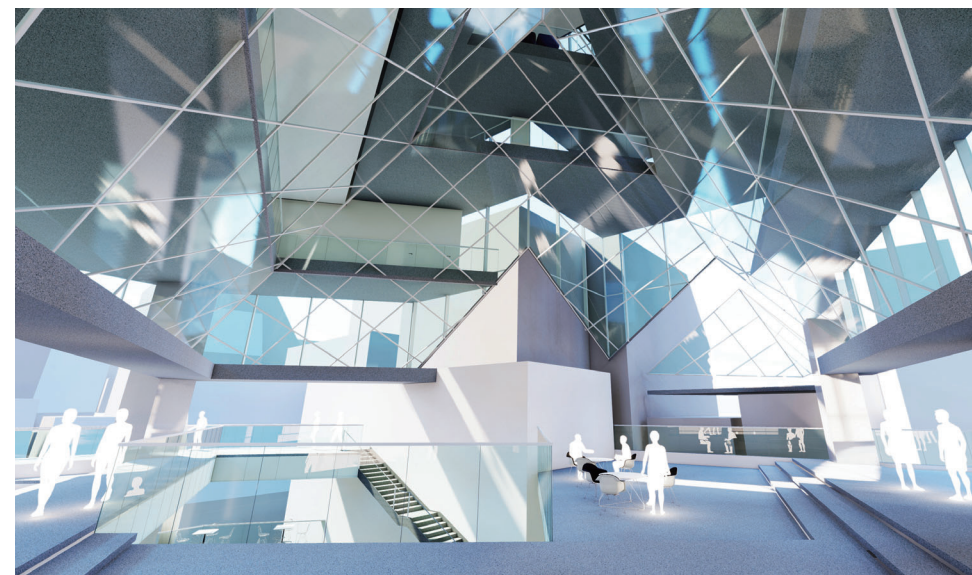
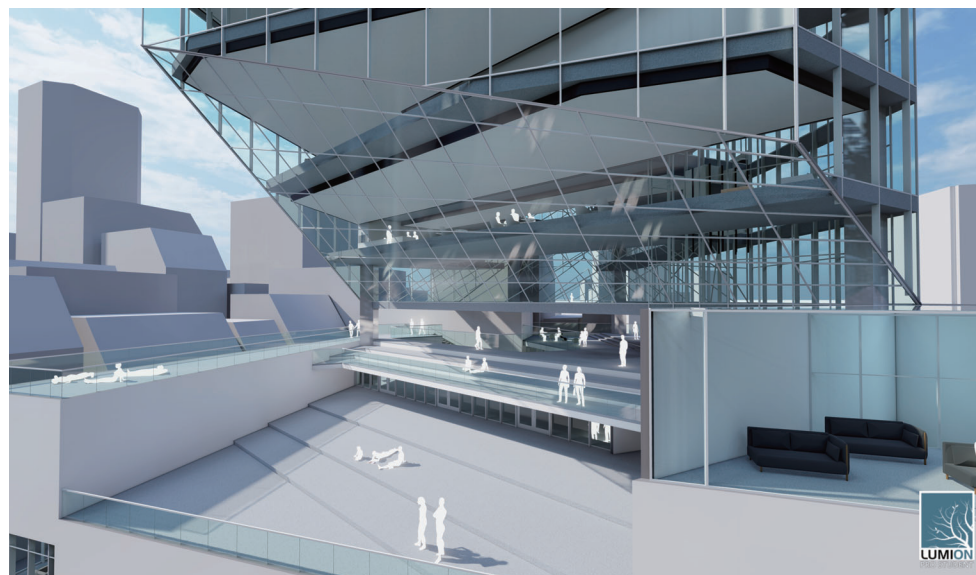
SECTION DIAGRAM : Trimmed by Pyramid



UPPER STOREY :

上層階のボリュームは、集合体ネットワークの構成要素である三角錐をヴォイドとして切り取られる。ネットワークの形態が物理的に顕在化し、周辺領域から明確にその存在が視認される。建物南面は斜めに切り取られ、三角錐の頂点が上層階内部に突き刺さっているような形態となる。6FLのスラブは大きく削り取られ、2つの三角錐の狭間に漂う。

6 F L : R E S T A U R A N T



4 F L : A U D I T O R I U M

4 F L : A T R I U M

6 F L : R E S T A U R A N T

Prospects :

集合体による都市環境制御の仕組みは、永続的に存在する。複数の要素によって形成されるネットワークは都市の発展の状況に応じて柔軟に形を変えながら、ビル群の幾何学による地盤面に新たな関係と体験を生み出し続ける。それらはこの地の全ての人々の記憶として共有され、永続的に記憶を媒介した仕組みは存在する。集合型ネットワークは時代を超えて都市に存続する記憶の媒介となっていく。

UNO Lab. Kaito Fujinuma